

**NSG**  
GROUP

# NSG グループ

## 2020年3月期第2四半期決算報告

(2019年4月1日～ 2019年9月30日)

日本板硝子株式会社  
2019年10月31日

**森 重樹**

代表執行役社長兼CEO

**諸岡 賢一**

代表執行役副社長兼CFO

**クレメンス・ミラー**

代表執行役副社長兼COO

## 目次

1. 2020年3月期第2四半期 決算概要
2. 2020年3月期第2四半期 事業状況
3. 2020年3月期連結業績予想の修正
4. FY20方針: Shift to “VA + Growth” アップデート
5. まとめ

## 2020年3月期第2四半期 決算ハイライト



### 為替変動と第2四半期に入り厳しさを増した市場環境

売上高	2,886億円 (前年同期比△6%)	主として為替変動の影響により減少 為替影響を除けば前年同期比2%減少
無形資産償却前 営業利益	158億円 (前年同期比△16%)	欧州の自動車生産の減少および第2四半期に入り 一部の建築用ガラス市場での悪化影響を受ける
親会社所有者に 帰属する当期利益	19億円 (前年同期比△79%)	営業利益の減少に加え、前期に一過性の持分法投資利益が 計上された影響
フリー・キャッシュ・フロー	△288億円	戦略投資*と運転資本の季節変動等による影響

\* 戦略投資：19ページ参照

2020年3月期第2四半期のハイライトです。

売上高は、主に為替変動の影響により、前年同期比6%減の2,886億円となりました。為替換算の影響を除くと、2%の減収です。

無形資産償却前営業利益は、為替変動に加えて、欧州の自動車生産の減少及び第2四半期に入ってから一部地域の建築用ガラス市場で事業環境が悪化した影響を受け、前年同期比16%減の158億円となりました。

親会社所有者に帰属する当期利益は19億円となりました。前年同期より大きく減っていますが、これは営業利益の減少に加え、前年同期に持分法投資利益として計上した一過性の利益が当期に発生しなかったことが大きな要因です。

フリー・キャッシュ・フローについては、戦略投資と運転資本の季節変動等により、マイナスの288億円となりました。年度末に向け、戦略投資の額は想定通りに増えていきますが、戦略投資等を除いた通常のベースではプラスのフリー・キャッシュ・フローになるように改善を目指してまいります。

# 連結損益計算書



第2四半期は市場環境の悪化により減速

(億円)	2019年3月期 4月-9月期	2020年3月期 4月-9月期	増減
売上高	3,081	2,886	(195)
無形資産償却前営業利益	188	158	(30)
償却費 *	(10)	(9)	1
営業利益	179	149	(30)
個別開示項目	(12)	(22)	(10)
金融費用 (純額)	(67)	(63)	4
持分法による投資損益	38	8	(30)
税引前利益	137	72	(65)
当期利益	100	24	(76)
親会社の所有者に帰属する当期利益	93	19	(74)
EBITDA	320	317	(3)

\*: ビルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却

2019年10月31日 | 2020年3月期第2四半期決算報告

6

連結損益計算書です。

売上高、営業利益及び親会社の所有者に帰属する当期利益については、先ほどお示した通りです。

個別開示項目は、22億円のマイナスとなりました。子会社の売却益を計上する一方、欧州の自動車用ガラス事業におけるリストラクチャリング費用や北米の建築用ガラス事業における停電に伴う設備休止費用などを計上しています。

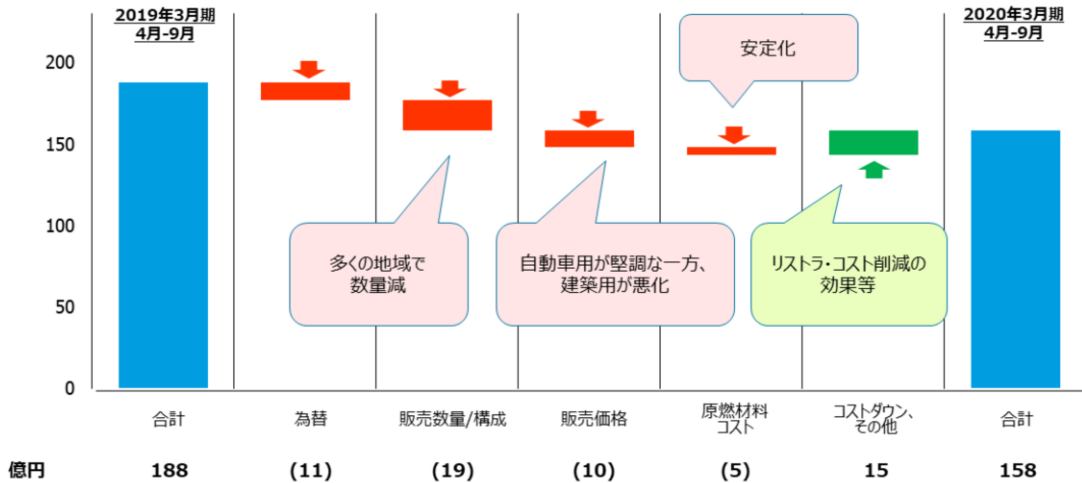
個別開示項目の詳細については、当資料の補足資料の33ページに記載されています。

次にネット金融費用については、当期から適用しましたIFRS16号「リース」に伴って利息費用が増加したものの、全体として、前年同期比4億円減少しています。

持分法による投資損益が大幅に減っていますが、先ほど申し上げた通り、前年同期にブラジルのセブラセ社において計上した一過性の利益が、当期には発生していないことが大きな要因です。

# 営業利益差異分析 (無形資産償却前)

コストベースの改善により、為替変動や市場環境の悪化影響を緩和



2019年10月31日 | 2020年3月期第2四半期決算報告

無形資産償却前営業利益について、前年同期との差異について説明しています。グループ全体としては、減益ではありながらも、コストダウンや生産効率改善といった効果により、数量減や販売価格の低下などのマイナス影響を一部吸収しています。

個別の要因ですが、

「販売数量/構成」は、太陽電池パネル用ガラスでは大きく伸びている一方で、欧州の建築用、自動車用ガラス事業や一部の高性能ガラス事業など、多くのエリアで販売数量減少による影響を受けました。

「販売価格」は、建築用ガラスが北米などで悪化しましたが、自動車用ガラスが堅調に推移しました。

「原燃材料コスト」は、物流費や原材料費が増加した影響を受けましたが、第2四半期に入ってから安定的に推移しています。

「コストダウン、その他」ですが、建築用ではイギリスの加工事業のリストラ効果や北米地域での操業安定化による継続的なコスト削減効果などが入っています。それ以外にも、インフレの調整や連結上の調整勘定などにより、全体として15億円のプラスとなっています。

## 主要財務指標 (KPI)



ネット借入はIFRS16号の適用や戦略投資により増加

	2018年9月末	2019年9月末	2019年3月末
ネット借入 (億円)	3,201	3,881 <sup>*1</sup>	3,177
ネット借入/EBITDA	5.1x	5.6x	4.9x
ネット借入/純資産比率	2.2x	3.8x	2.4x
自己資本比率	17.8%	11.9%	16.2%
	2019年3月期 4月-9月期	2020年3月期 4月-9月期	2019年3月期
営業利益率 <sup>*2</sup>	6.1%	5.5%	6.3%

\*1: IFRS16号適用による310億円の増加を含む

\*2: 無形資産償却前営業利益

2019年10月31日 | 2020年3月期第2四半期決算報告

8

主要財務指標の一覧になります。

「ネット借入」は、主にIFRS第16号「リース」の適用、戦略投資及び運転資本の季節的な増加による影響を受け、前期末に対して704億円増加し、3,881億円となりました。

「ネット借入/EBITDA比率」及び「ネット借入/純資産比率」は、「ネット借入」の増加による影響を受けました。

「自己資本比率」は、為替換算の影響やIFRS第16号の適用により、前期末の16.2%から11.9%へ減少しました。

「営業利益率」は、前年同期と比較して残念ながら低下しています。

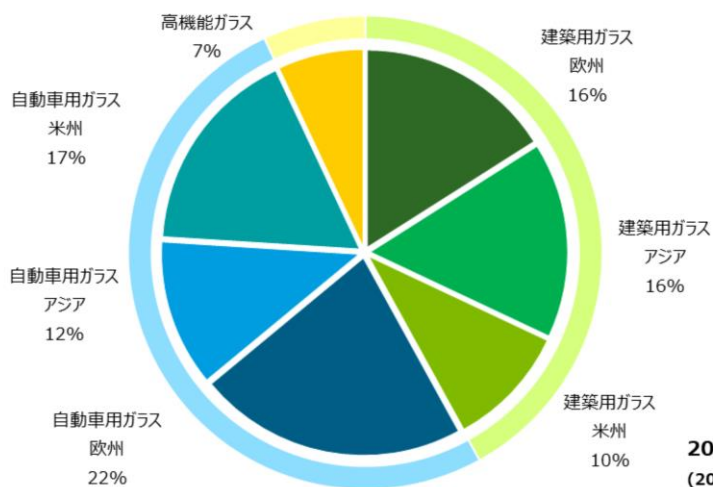


# 事業別売上高

グローバルに事業展開



2,886億円



2020年3月期 第2四半期  
(2019年4月-9月)

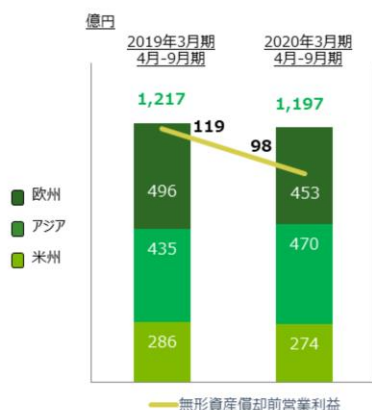
2019年10月31日 | 2020年3月期第2四半期決算報告

9

当社グループの事業セグメント毎の売上高の構成比を示しています。

## 建築用ガラス事業 前年同期比

為替変動と第2四半期に一部市場の悪化影響を受ける。太陽電池パネル用ガラスは堅調



### 欧州 (減収・減益)

- 為替変動に加え、販売数量減少の影響を受ける

### アジア (増収・減益)

- 太陽電池パネル用ガラスの販売数量が伸長
- 在庫評価損を計上するも、日本の利益は改善

### 米州 (減収・減益)

- 北米ではガラス供給増による価格下落
- 南米は不透明な経済環境下でも現地通貨ベースの業績は改善
- 太陽電池パネル用ガラスの出荷は増加

当社グループの建築用ガラス事業の業績についてご説明いたします。

売上高は前年同期比2%減の1,197億円となっていますが、為替換算の影響を除くと4%の増収です。欧州や南米の通貨安が影響しています。利益は太陽電池パネル用ガラスが堅調であったものの、為替変動の影響に加え、第2四半期に入ってから、一部の一般建築ガラス市場での環境悪化の影響を受け、前年同期比21億円減の98億円となりました。

欧州はユーロ安の影響に加え、競争環境の激化に伴い販売数量が減少した影響を受け、前年同期比減収減益となりました。

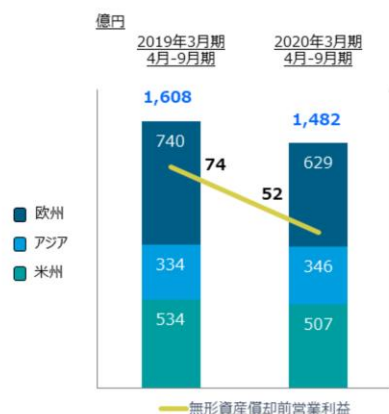
アジアでは、太陽電池パネル用ガラスの販売数量が伸びています。東南アジアで一般建築ガラスの価格下落の影響を受けていますが、日本では在庫評価損を計上しながらも、利益は前年同期比で改善しています。

北米でも太陽電池パネル用ガラスは堅調ですが、一般建築ガラスの市場でガラス供給が増加したことで価格下落の影響を受けました。

南米では、アルゼンチンなど、不透明な経済環境下にある中でも、現地通貨ベースの業績は改善しています。

# 自動車用ガラス事業 前年同期比

## 欧州での自動車生産減少の影響を大きく受ける



### 欧州 (減収・減益)

- 販売数量の減少により、減収減益

### アジア (増収・減益)

- 日本では、出荷数量が増加するも、素板コスト増加により減益

### 米州 (減収・増益)

- 北米の新車用ガラス(OE)の業績は生産効率向上により改善。補修用ガラス(AGR)も増益
- 南米の利益は前年並みで推移

次に自動車用ガラス事業についてです。

自動車用ガラス事業全体では、主に欧州での自動車生産の減少による影響を受け、売上高は前年同期比8%減の1,482億円、利益は前年同期比22億円減の52億円になりました。

欧州は、販売数量が減少し、減収減益となりました。

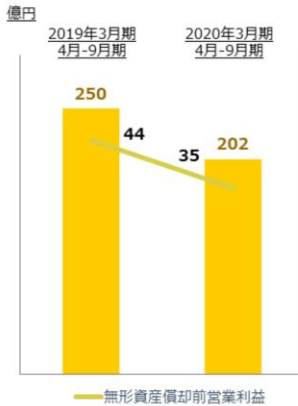
アジアは、前年同期比増収減益となりました。日本では消費税率引き上げ前の需要もあり、出荷が前年同期比で増加しましたが、利益は素板コストが増えたことで減益となりました。

米州は、建築用ガラス事業と同様に、為替換算の影響を受けました。売上高は、アルゼンチン・ペソの下落などにより、前年同期比で5%の減収となりましたが、為替換算の影響を除くと、1%の微減にとどまっています。

北米では新車用ガラス(OE)において生産効率が改善していることや、補修用ガラス(AGR)でも改善したこともあり、増益となりました。南米の業績は前年並みの水準で推移しています。

## 高機能ガラス事業 前年同期比

一部の事業での厳しい市場環境の影響を受ける



### 高機能ガラス事業 (減収・減益)

- ファインガラスは、継続的なコスト削減や売上構成改善による効果を反映
- プリンター用レンズ及びガラスコードは、需要軟化の影響を受け減収
- バッテリーセパレーターの業績は引き続き堅調

最後に高機能ガラス事業です。

高機能ガラス事業全体では、売上高は一部の事業での厳しい市場環境の影響を受け、前年同期比48億円減収の202億円、利益は前年同期比9億円減の35億円になりました。

セグメント別の状況ですが、ファインガラス事業は、継続的に続けてきましたコストベースや売上構成の改善が利益に反映しています。

プリンター用レンズ及びエンジンのタイミングベルトに使用されるガラスコードは、需要軟化の影響を受け、減収減益となりました。

バッテリーセパレーターの業績は引き続き堅調に推移しています。

## 連結業績予想の修正



### 最新の事業環境を織り込み

(億円)	2019年3月期 実績	2020年3月期 通期見通し (当初)	2020年3月期 通期見通し (修正後)	差異
売上高	6,128	6,200	5,700	(500)
無形資産償却前営業利益	388	370	310	(60)
償却費*	(19)	(20)	(20)	-
営業利益	369	350	290	(60)
個別開示項目	(71)	(60)	(70)	(10)
金融費用(純額)	(133)	(140)	(140)	-
持分法による投資損益	62	40	20	(20)
税引前利益	227	190	100	(90)
当期利益	144	120	40	(80)
親会社の所有者に帰属する当期利益	133	110	30	(80)

\*: ビルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却

2019年10月31日 | 2020年3月期第2四半期決算報告

13

2020年3月期の連結業績予想になります。  
 ここまで説明しましたとおり、この第2四半期は市場悪化の影響を受け減収減益となりましたが、今後下期にかけても主要市場において同様の減速傾向が続く見通しであることをふまえ、誠に遺憾ながら通期業績予想を修正しております。

修正後の2020年3月期の業績予想ですが、  
 売上高は当初見通しから500億円減の5,700億円、  
 営業利益は当初見通しから60億円減の290億円、  
 親会社の所有者に帰属する当期利益は当初見通しから80億円減の30億円 となっております。

# まとめ



## 第2四半期決算

- ▶ 為替変動に加え、欧州の自動車生産の減少、および第2四半期に入り一部の建築用ガラス市場が悪化した影響を受け、減収減益

## 今期（下期）の見通し

- 主要市場で減速傾向が続く見通しを踏まえ、通期業績予想を修正
  - 建築用ガラス事業
    - ▶ 欧州・北米：ガラス供給増により厳しい市場環境
    - ▶ 太陽電池パネル用ガラスは伸長
  - 自動車用ガラス事業および高機能ガラス事業
    - ▶ 欧州、中国を中心とした自動車生産の減少が影響
- 戦略投資を除く通常のフリー・キャッシュ・フローはプラスを目指す

第2四半期における市場環境の悪化と、この状況が下期も続くとの見通しを踏まえ、業績予想を修正しております。

その前提となる年度下期の各事業の見通しですが、建築用ガラス事業は、欧州と北米でガラスの供給増により市場環境が厳しくなるものとみています。一方で太陽電池パネル用ガラスは堅調に推移するものと見込んでいます。また、自動車用ガラス事業と高機能ガラス事業の一部では、欧州及び中国を中心とした自動車生産の減少による影響を引き続き受けるものと見込んでいます。

また、キャッシュ・フローについては、運転資本を厳しく管理することにより、当期末までに戦略投資等を除く通常ベースのフリー・キャッシュ・フローをプラスにしたい、と考えています。

内外の経済環境は不透明感がさらに強まっていますが、これを注視しながらも、修正後の業績見通しについては、VA製品の一層の拡販や効率改善、コスト削減施策等に引き続き注力して、達成したいと考えています。

これに加えて、事業構造の変革によって増益基調の回復に向けた取り組みを継続的に行っていきたいと考えています。

# FY20方針： Shift to “VA + Growth”

# 「Shift to “VA + Growth”」に基づき施策推進

市場影響を受けるも、再上昇に向け施策を推進

## FY20 成長ステージごとの取組み

### 基盤事業

#### 事業収益力の強化

- VA化加速、目標50%へ
- 生産性改善、コスト構造
- 重点取り組み事業の収益改善

### 成長事業

#### 成長機会開発

- 戦略投資案件の確実な立上げ
- マーケティング機能の強化
- R&D体制の拡充
- 新製品の上市、拡販

### 新規事業

#### 新規事業育成

- ビジネス・イノベーション・センター（BIC）増強  
実行フェーズに移行

## 上期注力事項

- 生産性改善・コスト削減の推進
- 重点事業の収益改善
- 成長事業への投資
  - 太陽電池パネル用ガラス（アメリカ、ベトナム）
  - 新興市場（アルゼンチン）
- 中長期の成長へ向けた製品・事業の開発
- 企業価値の向上へ向けて - ESG

今年度掲げている会社方針は、shift to VA+Growthです。

これは昨年度から継続して掲げているもので、従来のVAに「Growth」を付け加えたものです。

当社は過去数年、中期経営計画MTPに則りVA化、つまり、より付加価値の高い事業への転換を進めているわけですが、新たにその先にある「成長」をより明確に打ち出したものです。

スライド左側は年初にお見せした基盤、成長、新規の各事業の成長ステージごとの取り組み方針です。右側がこの方針に基づき種々のアクションを計画し、実行しているものになります。それらの進捗について以降のスライドで順次ご説明します。

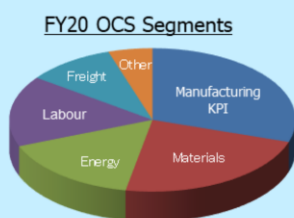


# 生産性改善・コスト削減の推進

## 全社的なコスト削減活動と重点事業での効率改善により収益力強化

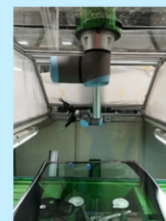
### OCS (Operational Cost Saving Programs)

- 継続的な収益改善活動。年間100億円以上を目標に取り組み、計画通りの進捗
- 生産改善、原燃料費、人件費削減に加え、重要性の高まるCO2排出削減にも注力
- 物流コスト削減プロジェクトも始動



### 自動車用ガラス生産効率改善に注力

- アセンブリー工程付加価値化
  - VAA%\*向上
  - ロボット・コボット利用による自動化
- リアウインドウ生産用にフレキシブル・高性能ラインを導入（欧州）
- 要求水準の高い新規受注製品のスムーズな立ち上げ
- 一方で、欧州を中心とする需要急減速に対応中



\* VAA%: 価値作業時間比率; FY18導入

市場環境は常に変化し続けます。その中で、メーカーとして、収益力強化のためにいちばん大事なのがこの生産性改善とコスト削減です。

まずスライド左側の説明です。製造部門を中心とする継続的なコスト削減活動をOCSと呼んでいますが、100億円を超える削減目標を掲げています。製造、原燃料といった従来からの取り組み分野に加えて、今年度から新たに輸送費削減のプロジェクトを開始しました。また、環境規制の強化を背景に重要性もコストも上がっているCO2排出の削減にも力を入れています。これらの効果は年間を通して発現し、年々上昇する労務費や投入コストの影響を相殺し、コストベースの低減に貢献します。

次にスライド右側の説明です。生産効率改善は、グループ全体で取り組んでいるものですが、ここ数年は、中でも、工程が複雑な自動車用ガラスの効率化に力を入れてきました。特に、車のモデルやそれぞれのオプションに合わせて、多数の部品をガラスに取り付けるアセンブリー工程の改善に注力しています。設備の統廃合や刷新も含め、このような活動の積み重ねにより、欧米の自動車用ガラスで改善効果が見え始めています。後のスライドで北米での改善について説明します。

一方で、昨年後半からは欧州で自動車生産の急激な落ち込みがあり、それに対応した生産体制の見直し・最適化も急ピッチで進めています。

# 重点事業における収益改善の進捗

## 構造改革と生産改善の忍耐強い取り組みで改善効果が顕在化

### 日本建築用ガラス事業

- 将来の国内需要縮小を見据え、複数年にわたる構造改革プロジェクト断行中
- プロジェクトによる損益改善目標：30億円以上
- 実施事項：
  - 加工拠点統廃合
  - 流通網最適化
  - 人員削減
  - 一部加工生産ラインの停止
  - 物流コスト削減等
- VA化は引き続き強力に推進
- 10/1からの値上げによる収益改善も目指す

### 北米自動車用ガラス事業

- 強化ライン統廃合・自動化により、固定費削減し収益力改善
- APBL導入よりWS対応力UP
- SUV市場での優位性を生かしてVA化推進



Toyota RAV4 Courtesy of TMNA

全社的な改善に加え、事業収益力に課題のある事業は経営として特に注力して改善を進めています。ここでは、足元で改善が見えてきた日本の建築用ガラスと北米の自動車用ガラスを取り上げています。

まずスライド左側の説明です。日本における建築用ガラス事業ではVA化の推進で利益改善を目指しています。

しかし人口減など将来の市場変化を見越し、昨年半ばからより抜本的な構造改革に着手しました。

これには痛みを伴う施策も含まれますが、先を見据えて取り組んでいます。

このプロジェクトは来年も継続しますが、合計30億円以上の効果を見込んでいます。

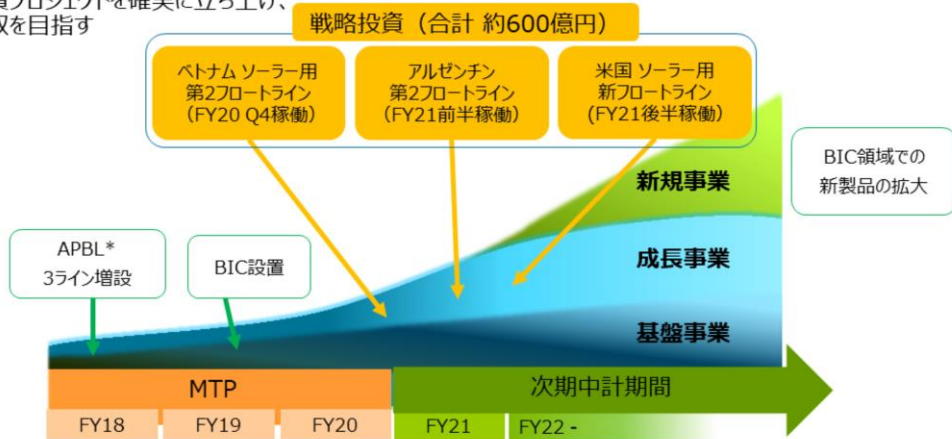
次にスライド右側の説明です。北米の自動車用ガラス事業でも、生産効率改善などにより業績改善が見えてきています。

2年前にはAPBL設備に投資しており、変化する消費者の好みに対応し、より品質のよいVA製品を供給し続けることでさらにこの改善モメンタムを継続していきたいと考えています。

# 成長事業への投資

## 強みのある、成長分野へ選択的な投資

- 戦略投資プロジェクトを確実に立ち上げ、早期回収を目指す



\* APBL : Advanced Press Bending for Laminated glass - フロントガラス用高精度プレス工法

次にGrowth、つまり成長に向けての取り組みです。

成長の原動力の中心となるのは、昨年度発表した2つの「戦略投資」プロジェクトです。具体的にはこの図で示している3本のフロートラインを含む能力増強投資であり、これらをしっかり計画通り立ち上げ、早期の投資回収を図るべく、最優先で取り組んでいます。

# 戦略投資 – 太陽電池パネル用ガラス増産

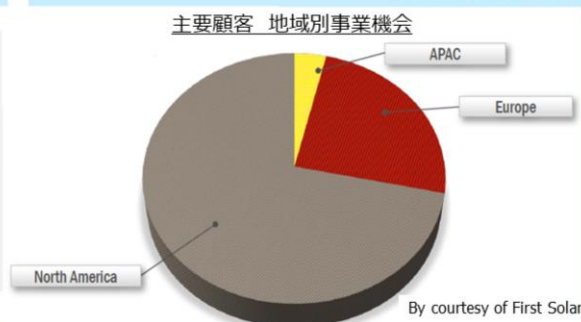
## 伸びる需要に対応し、事業成長を支える能力増強

### 再生エネルギーへの転換を背景にソーラー需要は堅調

- 2018年の減速後、再度成長へ
- 中国で政府補助金政策変更による影響を受けるも、欧州、中近東が成長。米国市場は安定の方向

### 投資プロジェクトは順調に進行

- ベトナム: FY20Q4生産開始予定
- 米国: FY21下期生産開始予定



2019年10月31日 | 2020年3月期第2四半期決算報告

20

まず、ソーラー用のガラスの増産投資についてご説明します。

当社は、顧客需要にこたえるため、ベトナムで休止中のフロートラインをソーラー用に転換することと、米国でラインの新設を進めています。

再生エネルギーへの切替を背景にソーラーの需要は伸びています。この傾向は今後とも続くものと考えております。

ただ伸びる分野、地域には差があります。最近では政策変更の影響で中国の伸びが鈍化する一方、米国や欧州、中近東が伸びています。これらの地域は当社主要顧客が強みを有する地域です。またITやユーティリティ会社による再生エネルギーへの切替もメガソーラーを中心とする当社顧客には機会となります。

一般にソーラー関連事業は厳しいというイメージが特に日本ではありますが、当社が手掛けているのは他の結晶シリコンとは異なり、薄膜ソーラー向けであり、また多くの受注残を抱える限定された顧客と密にビジネスを行っている点で、先々が有望である点をご理解いただきたいと思います。スライド右側に記載の通り、ベトナムは今期第4四半期に、アメリカでは来期下期には生産を開始できる見通しです。

# 戦略投資 – 南米での能力増強

## 新興市場の成長に向けアルゼンチンで第2フロートラインの建設推進

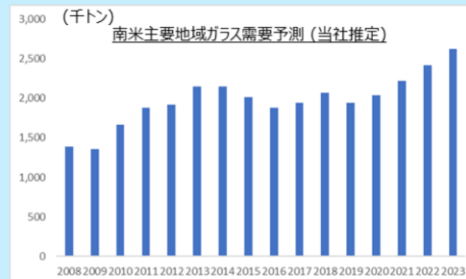
- 政治不安・経済混乱から市場は軟化するも依然国内需要は供給能力を上回る
- VASA社（※アルゼンチン子会社、Saint-Gobain社とのJV）は、80年の歴史を有するアルゼンチン唯一の板ガラスメーカー
- 確固たる市場ポジション・顧客基盤を背景に安定した事業運営を維持、地域特有のリスクにも対応



アルゼンチン含む南米の高い成長可能性に変化なし

一人当たりガス消費量	KG/人
アルゼンチン	5
ブラジル	8
ポーランド	>20
北米・西欧	10~15

※2016年 当社推定



次に、南米、アルゼンチンでのフロートライン新設の投資です。

ご存知の通りアルゼンチンでは足元政治経済が不安定ではありますが、これは決して初めての状況というわけではありません。一方同国の事業は、Saint-Gobain社とのJVとして80年の歴史を有しており、積み重ねたリスク管理能力をもちしております。

また需要の面では、現在同国にはフロートラインが1基しかなく、国内や周辺地域の需要を賅いきれていない状況です。また他の新興市場と比べても一人当たりガス消費量がまだまだ低く、伸びる余地があります。

短期的に為替やインフレの影響はありますが、将来の成長へ向けて建設活動をしっかり進めています。

# 自動車のCASE対応VA製品で成長へ

強みを生かしたVA製品群の受注が拡大。来期以降の業績貢献を目指す

NSG  
GROUP



2019年10月31日 | 2020年3月期第2四半期決算報告

22

自動車の領域ではCASEということで100年に一度と言われる技術革新が進んでいます。その結果ガラスについても、当社の強みを生かせる機会が今まで以上に広がっています。

昨年度後半から需要が落ち込み、業績はその影響を受けていますが、来年以降の発売車種で様々なVA製品の受注が確定しており、楽しみにしているものがたくさんあります。

Low Eガラスの採用や、ワイヤーを使わずにコーティング技術によってフロントガラスを温めたり、ガラスの軽量化など省エネや環境負荷削減に寄与する製品もあれば、HUDや車載用途、アンテナといったコネクティビティに寄与する製品など、それぞれ当社の強みがお客様に認められて採用につながっています。

# 中長期の成長へ向けた布石

一歩先のトレンドを見据え製品・サービス開発推進



## BIC組織の拡充、企業文化の変革も進行中

- **PicoGene™**: 日本限定で試験販売中  
革新性は学会、展示会でも高評価  
'20年5月から世界販売開始予定
- 発足から1年、専門人材の外部採用を含め、  
現在約100名体制
- **事業・製品開発加速への変化**
  - 製品ありきからアプリケーションマッチングへ  
→ 最終市場が明確
  - 自前主義を脱却。主体性は維持しつつ広く  
外部とコラボレーション → 社外にもリソース

## 4つの取り組み領域で新製品・新規事業開発加速

### ライフサイエンス

食・水の安全、環境、  
資源、学術に注力



### IoT, Cloud

高速データ通信、センサー、  
フィルターに注力



### エネルギー変換

機能性材料を通して  
変換効率を高める



### Industry 4.0

ファインガラスの応用で  
センサーを高性能化



さらに先を見据えての取り組みとしては、昨年新しく作った組織Business Innovation Centerがありますが、そのミッションを果たすべく具体的なアクションを進めています。

外部発表したのはまだPicoGeneというモバイル遺伝子検査機のみではありますが、スライド右側に記載の重点分野とする4領域において、当社が従来より有する技術・製品を、早く事業化に結び付けるべく活動しています。

何が従来と変わったのかですが、まず組織の文化に変化が出てきています。組織のリーダーは外部から、しかもガラスとは全く違うスピード感で事業を行っていた企業の出身者です。当社はよい製品や技術を持っていてもなかなかそれを市場ニーズに結び付けることにおいては改善の余地がありました。過去一年、新しい人材を入れ、また外部との協働を強力に推し進めてきたことで、視野の広がり、スピードアップが実感されるようになってきました。

成果が目に見えるのはまだ先ではありますが、変化の手ごたえを感じ始めているところです。

# 強みのある製品を生かし環境貢献機会を追求



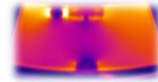
スマートビル、ZEH・ZEB、EV等社会の進化を支える多様なソリューションを提供

真空ガラスやLow Eガラスで熱をコントロール



窓で発電  
透明BIPV  
共同開発

低消費電力ヒーティングフロントガラス



ダイナミックグレーシングの拡大に  
応えるオンラインコーティングガラス



View社エレクトロクロミックガラス

環境負荷軽減



快適空間

自動車用Low Eガラスで  
車のエアコン負荷を軽減



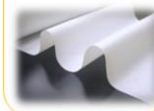
光をコントロール、サーモクロミックガラス



ビルに再生エネルギーを供給する  
メガソーラー用ガラス



大容量蓄電へ



自動化に必須  
センサー



2019年10月31日 | 2020年3月期第2四半期決算報告

24

成長機会については、高まる環境意識も当社の機会であると考えています。建物や自動車のスマート化が進み、外部環境に与える影響を低減するニーズとともに建物や車両の内部での快適性のニーズはさらに高まっています。このような大きな社会の変化に対して、当社が建築用、自動車用、高機能それぞれの分野で有する製品・技術は大きな貢献をしていくことができると考えています。

例えば、スマートビルの窓には、ダイナミックウィンドウが採用され、光や熱を取り入れたり遮断したりできるようになります。また建物の窓でありながら発電のできるBIPVは技術が進み、透明でより発電効率の高いものになれば採用可能性が広がります。

自動車ガラスでの可能性は先ほども述べましたが、高機能ガラスやBICの領域でも、社会の変革に貢献する製品・事業を開発しています。事業や製品によって実現化までの時間軸は様々ですが、いずれも当社経営理念「Our Vision」に沿って社会にも貢献でき、当社製品が普及していくことが期待できる機会として楽しみにしているものです。



# 企業価値の向上へ向けて – ESG



## ESGへの不断の取り組み

### ガバナンス：持続的な成長と中長期的な企業価値の向上への基盤

- 独立社外取締役1名増により、独立社外取締役が過半数に(5名/9名)
- 取締役会実効性評価(4年目)を受け、重要課題・戦略課題議論の深化に向けたアクションプラン策定
- 役員報酬の開示拡充

### 環境：製品による環境貢献+生産プロセスの改善

- 製品を通じた環境への貢献に加えて、自社工程からの温室効果ガス(GHG)排出削減に取り組む
- '19/10 SBTイニシアティブ(SBTi)目標認定  
2030年までに2018年対比でGHG21%削減をコミット  
燃料エネルギー転換、製造工程改革、再生エネルギー活用等を推進  
(例：英事業所に太陽光発電設備設置)



### 社会：責任ある企業として

- より活力ある企業を目指し、インクルージョン&ダイバーシティ推進
- 国籍・性別多様性、障がい者雇用に注力

環境貢献製品について申し上げましたが、これは当社のESGに対する取り組みの重要な柱でもあります。言うまでもないことですが、堅固なコーポレートガバナンスはすべての事業活動の基盤となります。当社は相当先進的な取り組みをしてきておりますが、さらに持続的な成長と中長期の企業価値向上を目指して、ここに書いておりますように、手を緩めず改善に取り組んでいます。

環境面では、先ほどのスライドで説明した製品による貢献とともに重要な分野として、工程からの温室効果ガスの削減を優先事項としております。ガラス溶融には化石燃料を用いており、この分野で何も手を打たないことは、企業としてのサステナビリティにかかわるものであると捉えております。それを内外に明確にコミットするため、SBTの目標を掲げ、今月に入りSBTiとしての承認も得られました。

社会の側面は「人」に焦点を当てています。目下の優先事項はインクルージョン&ダイバーシティです。この取り組みは企業としての活力にもつながると考えています。

## まとめ



### **2020年3月 第2四半期業績**

- 為替変動に加え、欧州の自動車生産の減少および第2四半期に入り一部の建築用ガラス市場が悪化した影響を受け、減収減益

### **下期見通し:主要市場で減速傾向が続く見通しを踏まえ、通期業績予想を修正**

- 建築用ガラス事業
  - 欧州・北米：ガラス供給増により厳しい市場環境
  - 太陽電池パネル用ガラスは伸長
- 自動車用ガラス事業および高機能ガラス事業
  - 欧州、中国を中心とした自動車生産の減少が影響
- 戦略投資を除く通常のフリー・キャッシュ・フローはプラスを目指す

### **再上昇に向けて、「事業構造の変革」に取り組む**

- 収益力強化のための生産性改善・コスト削減、注力事業の収益力強化を推進
- 成長に向けて、戦略投資の実行、製品開発・事業開発を加速

今回の説明のまとめです。

市場環境の悪化と為替変動を背景に、残念ながら今期の通期業績予想を下方修正いたしました。腰をすえた対策と、成長への布石を着実に進めることで、来期の展開につなげていきたいと考えています。

## ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境及び競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市況、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

日本板硝子株式会社

## 補足資料



- 事業部門別・地域別売上高及び償却前営業利益
- 事業部門別・地域別業績 四半期別推移
- 連結貸借対照表
- 連結キャッシュ・フロー
- 個別開示項目
- 為替レート等
- IFRS第16号「リース」の適用による影響額
- 2019年5月～2019年10月 主なニュースリリース

## 事業部門別・地域別売上高及び償却前営業利益\*

2019年3月期第2四半期との比較



売上高	第2四半期 (4月-9月：6ヶ月累計)		
	2019年3月期	2020年3月期	増減
単位：億円			
<b>建築用ガラス事業</b>	<b>1,217</b>	<b>1,197</b>	<b>(20)</b>
欧州	496	453	(43)
アジア	435	470	35
米州	286	274	(12)
<b>自動車用ガラス事業</b>	<b>1,608</b>	<b>1,482</b>	<b>(126)</b>
欧州	740	629	(111)
アジア	334	346	12
米州	534	507	(27)
<b>高機能ガラス事業</b>	<b>250</b>	<b>202</b>	<b>(48)</b>
欧州	41	35	(6)
アジア	201	159	(42)
米州	8	8	-
<b>その他</b>	<b>6</b>	<b>5</b>	<b>(1)</b>
<b>合計</b>	<b>3,081</b>	<b>2,886</b>	<b>(195)</b>

償却前営業利益*	第2四半期 (4月-9月：6ヶ月累計)		
	2019年3月期	2020年3月期	増減
単位：億円			
建築用ガラス事業	119	98	(21)
自動車用ガラス事業	74	52	(22)
高機能ガラス事業	44	35	(9)
その他	(49)	(27)	22
<b>合計</b>	<b>188</b>	<b>158</b>	<b>(30)</b>
欧州	95	57	(38)
アジア	90	73	(17)
米州	52	55	3
その他	(49)	(27)	22
<b>合計</b>	<b>188</b>	<b>158</b>	<b>(30)</b>

\*: 無形資産償却前営業利益

# 事業部門別・地域別売上高及び償却前営業利益\*

## 四半期別推移



### 建築用ガラス事業



### 自動車用ガラス事業



### 高機能ガラス事業



\*: 無形資産償却前営業利益

# 連結貸借対照表



単位：億円

	2019年3月末	2019年9月末	増減
<b>資産</b>	<b>7,619</b>	<b>7,767</b>	<b>148</b>
<b>非流動資産</b>	<b>5,163</b>	<b>5,366</b>	<b>203</b>
のれん・無形資産	1,611	1,517	(94)
有形固定資産	2,415	2,814	399
その他	1,137	1,035	(102)
<b>流動資産</b>	<b>2,456</b>	<b>2,401</b>	<b>(55)</b>
現金及び現金同等物	524	448	(76)
その他	1,932	1,953	21
<b>負債</b>	<b>6,294</b>	<b>6,746</b>	<b>452</b>
<b>流動負債</b>	<b>1,930</b>	<b>1,934</b>	<b>4</b>
金融負債	422	592	170
その他	1,508	1,342	(166)
<b>非流動負債</b>	<b>4,364</b>	<b>4,812</b>	<b>448</b>
金融負債	3,293	3,745	452
その他	1,071	1,067	(4)
<b>資本</b>	<b>1,325</b>	<b>1,021</b>	<b>(304)</b>
親会社の所有に帰属する持分	1,238	926	(312)
非支配持分	87	95	8
<b>負債及び資本</b>	<b>7,619</b>	<b>7,767</b>	<b>148</b>

2019年10月31日 | 2020年3月期第2四半期決算報告

31

# 連結キャッシュ・フロー



単位：億円

	2019年3月期 4月-9月期	2020年3月期 4月-9月期	増減
当期利益	100	24	(76)
減価償却費	142	172	30
減損損失（戻入）	(2)	5	7
有形固定資産等売却益	-	(10)	(10)
法人所得税支払額	(34)	(35)	(1)
その他	(38)	(7)	31
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー（運転資本の増減考慮前）</b>	<b>168</b>	<b>149</b>	<b>(19)</b>
運転資本の増加	(137)	(135)	2
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>31</b>	<b>14</b>	<b>(17)</b>
有形固定資産の取得			
－戦略投資等	-	(203)	(203)
－その他	(117)	(108)	9
資産売却収入	1	22	21
その他	(7)	(13)	(6)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>(123)</b>	<b>(302)</b>	<b>(179)</b>
<b>フリー・キャッシュ・フロー</b>	<b>(92)</b>	<b>(288)</b>	<b>(196)</b>

2019年10月31日 | 2020年3月期第2四半期決算報告

32



## 個別開示項目



単位：億円

	2019年3月期 4月-9月期	2020年3月期 4月-9月期
子会社の売却による利益	-	10
リストラチャリング費用	(13)	(17)
設備休止に係る費用	-	(12)
有形固定資産等の減損損失及び減損損失戻入益	2	(2)
係争案件の解決に係る費用	1	(1)
その他	(2)	-
	(12)	(22)

# 為替レート等



## 期中平均レート

	FY2018				FY2019				FY2020		
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	見通し
英ポンド	142	144	146	147	149	147	146	146	141	<b>137</b>	135
米ドル	111	112	111	111	110	111	111	111	109	<b>109</b>	109
ユーロ	122	126	128	130	131	130	129	129	124	<b>121</b>	122
ブラジル・レアル	34.6	35.0	34.8	34.4	30.4	29.3	29.3	29.4	28.0	<b>27.6</b>	-
アルゼンチン・ペソ	7.06	6.74	6.65	6.30	4.70	-	-	-	-	-	-

## 為替感応度

他の条件に変動がない条件で、為替レートが他の通貨に対して1%円高になった場合の増加（減少）額

(億円)	FY2018	FY2019
資本	(35.0)	(33.0)
当期利益	(1.0)	(2.0)

## 期末レート

	FY2018				FY2019				FY2020	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
英ポンド	146	151	152	150	145	148	141	144	137	<b>133</b>
米ドル	112	113	113	106	111	113	111	111	108	<b>108</b>
ユーロ	128	132	136	132	128	132	127	124	123	<b>118</b>
ブラジル・レアル	34.0	35.4	33.9	32.1	28.6	28.2	28.5	28.3	28.3	<b>26.0</b>
アルゼンチン・ペソ	6.81	6.42	6.03	5.30	3.94	2.84	2.93	2.53	2.53	<b>1.88</b>

## 原油価格 (ブレント)

FY2020 見通し 1バレル = \$67

## IFRS第16号「リース」の適用による影響額



	想定影響額
<b>損益計算書(年換算・概算)</b>	
EBITDA	90億円の増加
減価償却費	80億円の増加
営業利益	10億円の増加
金融費用	10億円の増加
税引前利益	影響軽微
<b>貸借対照表(期首調整)</b>	
有形固定資産	342億円の増加
リース負債	342億円の増加

## 2019年5月～2019年10月 主なニュースリリース



2019年5月21日	日本板硝子、米ユビキタスエナジー社と建物一体型太陽光発電（BIPV）の透明ソーラーウィンドウを共同開発
2019年5月30日	英ジャガー・ランドローバー社「サプライヤー優秀賞」を受賞
2019年6月14日	国内初ハイブリッド連節バス「いすゞ エルガデュオ」に当社ガラスが採用
2019年7月3日	国内建築用板ガラス製品の価格改定について
2019年7月8日	英事業所で太陽光発電設備が稼働開始
2019年9月30日	統合報告書2019を発行
2019年10月9日	日本板硝子の温室効果ガス削減目標がSBTイニシアティブの認定取得
2019年10月10日	北九州市いち押しエコプレミアムに「ペアマルチEA®・SE®」が選定

**NSG**  
GROUP